

立命館大学アート・リサーチセンター

文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
2017年度 共同研究成果報告書〔研究設備・資源活用型〕

2018年4月16日 提出

1. 研究課題名			
尾上松之助・絵葉書ブロマイド・大入り袋入り・40 作品、354 枚のデジタル化・画像公開 (英文標記: _____)			
2. 研究代表者			
氏名(ふりがな) まつの よしたか		所属機関・職名	
松野 吉孝		尾上松之助遺品保存会・代表	
3. 研究分担者 (合計: 0 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください			
氏名(ふりがな)	所属機関・職名	連絡先(電話・e-mail)	ARC 所属教員

4. 研究課題の概要(300 字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
<p>日本映画の草創期に、「目玉の松ちゃん」の愛称で慕われ、1000本もの映画に主演した「日本映画、初のスーパースター、尾上松之助」。しかし、現在残っている映画は 10 本に満たない中、当時の映画館で販売されていたと思われる、「大入り袋入り・尾上松之助劇・絵葉書ブロマイド、40 作品」のデジタル化を進め、今後の国際的尾上松之助研究資料の一助とする。取り上げる 40 作品の大半は、大正 11 年頃の物で、松之助晩年の大作、「荒木又右衛門(大正 14 年公開)」「忠臣蔵(大正 15 年公開)」に繋がる作品群で、「日本映画の父・牧野省三監督」による「金看板甚九郎」のほか、「中山安兵衛」「鼠小僧次郎吉」「弁天小僧」「後藤又兵衛」「猿飛佐助」など現在でもなじみ深い作品が多く、大正時代の庶民が求めた大衆娯楽の姿も探る。また今後、この枠組みを用い、一昨年発見された松之助最晩年の大作「大正 15 年・忠臣蔵」スチール写真のデジタル化・公開にも繋げたい。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)
<p>(1)尾上松之助・絵葉書ブロマイドのデジタル化・画像公開</p> <p>①40 作品、354枚のデジタル化、説明データ作成、公開準備完了。「覚書」締結後、6 月には公開予定。公開に先立ち「尾上松之助遺品保存会」と「学校法人立命館」との間で取り交わす「覚書:尾上松之助遺品保存会コレクションのデジタル写真およびデジタルファイルの運用に関する覚書」締結手続き中。</p> <p>②40 作品の各々について、上映・封切時の新聞広告記事を調べ紹介、当時の雰囲気を感じられるようにした。</p> <p>③「役者名」については、表記を統一し、「検索」の効果が最大限発揮出来るものとした。40 作品に登場する主要な役者は 23 名。</p> <p>(2)「日本映画 120 年記念、特別上映・講演会、展示会・・・日本映画の父・牧野省三先生、日本映画初の大スター・目玉の松ちゃん・尾上松之助を観る」(2017 年 11 月 29 日～12 月 1 日)を主催</p> <p>①門川京都市長、永島京都新聞社長をはじめ多くのご来賓をお迎えし、「監督:牧野省三、主演:尾上松之助、忠臣蔵(明治 43 年、45 年公開)」を上映。(協力:東京国立近代美術館フィルムセンター)</p> <p>②講演会では、立命館大学客員教授・中島貞夫監督:「草創期の京都映画を偲んで」、赤間教授:「尾上松之助遺品資料のデジタル・アーカイブズ」など。</p> <p>③展示会では、東京国立近代美術館フィルムセンター(現・国立映画アーカイブ)様のご協力を得て、監督 牧野省三、主演・尾上松之助作品の「絵葉書ブロマイド」13 作品、尾上松之助所縁の鎧などを展示。</p>